

経営理念：利用者『最善の利益』を図り、地域の福祉に貢献する

保育の方針 1. 子どもの人格・人権を尊重し、一人ひとりの思いを大切にします 2. 子どもの発達に即した援助・保育をします

方針 3. 子どもが安心して過ごせる生活の場にします

保育目標 ◆じょうぶな身体（健康）◆たしかな考え（理性・認識）◆ゆたかな心（感性・情緒）◆よき仲間（協調性・社会性）

らっこ 0歳児クラス便り

2023. 6.20（火） 文責：南 陽子

先日の保育参観、親子遠足の参加ありがとうございました。手作りおもちゃの反応はいかがでしたか？園でもチェーンを引っ張ってみたり、太鼓にして叩いたり自宅でも遊んでいる様子を見せてくれます。一人で集中して遊ぶ姿が良く見られるようになったこと、また友だちが遊んでいるおもちゃに興味を示し自分で動き近づいて一緒に遊ぶ姿も見られます。子ども達の遊びたい気持ちを尊重し過ごしていきたいと思えます。

日々トレーニング！？

～思いっきり体を動かして遊んでいます～

4月当初はうつ伏せ、仰向けや座位のままの子ども達でした。抱っこして場所移動したい時に涙が出たり、声を出して体制を変えて！と教えてくれていました。今ではずいといやいやい、つかまり立ちや伝い歩きで動ける楽しさを感じています。梅雨とやけど虫の発生で外に行けない毎日。滑り台を室内に設定し、ホールではマットやスロープ、段差を付けた踏み台を設置。「何しているの？」「面白そう！」と近づいてきます。小さな手や足で体重移動をしながら登ったり下りたりと場所を目で確認して自分の力がどこまであるか確認しながら動きます。登りきるとマットを両手で叩き喜ぶことも。固定遊具では物足りず、私たちの膝に上体を起こして腕の力と足の力で上ります。また、座っている正面に来るとエプロンや洋服にしがみつき、つかまり立ちもしています。子ども達の行動をよく観察していると、体重移動でバランスを崩し転倒する事もあります。しかし、同じ場所で同じ経験をした過去の事を思い出し、予測し転倒しそうになると手が出て上体を起こしたり、危険を感じ目を閉じたりと体を動かしながら経験を実践しているように感じます。

危ないとすぐに大人が回避するのは簡単ですが、危険の予測ができるようまた体験を次に生かせるよう見届けることもしています。時には痛い思いもすることもあります。痛くて涙が出ることもあります。その時は「痛かったね。怖かったね」と気持ちを受けとめ、ギュッと抱きしめています。この経験が自分の体をコントロールシケガをしにくい体作り、痛かった・怖かったけれど受け止めてくれる大人がいる安心感を育てるのかと感じます。

遊びの中から子ども達は育つことを日々子ども達から学ぶ毎日です。今後、行動範囲がもっと広くなると今以上に危険があるかと思えます。小さな怪我でも経緯の説明責任をしっかりと行っていきたいです。

これから梅雨が明けると夏本番です。夏ならではの遊び、水や泥での外遊びの経験をたくさん楽しみたいと思います。引き続きたくさんの洗濯物が続きますがいっぱい遊んだ（経験した）と大きな心で感じてもらえたらありがたいです。ご協力よろしくお願い致します。

また感染症が流行っていますので、体調の変化には気を付けていきたいと思えます。いつもと違う様子等、小さなことでも帳面や口頭でお知らせいただくと助かります。

《お願い》

※食後に沐浴(シャワー)を行っています。感染症も流行っていますので個人用の汗ふきタオル(体が拭ける大きさのタオル)を週初めに持たせてください。

※マグマグをまだ持参されていない方は準備が出来たら持たせてください。

※すべての持ち物に記名のご協力をよろしくお願いいたします。

♪今月の子ども達の様子です♪



部屋の前の階段でちょっと怖い体験です



苦情・相談解決制度 本園の保育や処遇等に意見・要望がありましたら、ご遠慮なく申し出て下さい。

受付担当者 主幹保育教諭 榎並 理恵 解決 責任者 園長 中根 賢誠

第三者委員 丸田瑞穂(099-482-2927) 横峰 友里子(099-474-1506) 山口 和美(090-5473-5866)